

連合の考え

- 3年間で約650億円以上の予算を確保し、「就職氷河期世代支援プログラム」に取り組み、就職氷河期世代の正規雇用者数は約3万人に留まった。支援を2年間継続されるが、**これまでの各省庁の支援策の効果検証等を踏まえた支援が実施されなければ、状況は変わらない。**
- その上で、省庁横断的に連携しつつ、当事者の希望に寄り添った丁寧かつ実効的な支援が必要。特に、**様々な業種・職種との雇用マッチングは重要であり、給付・教育訓練をセットにしたセーフティネットの構築・拡充も必要。**
- 各地域において、**地域や企業の人材ニーズや、当事者自身の求職ニーズを適切に踏まえた支援が展開できるよう、全国・地方プラットフォーム及び各労働局の連携強化が必要。**
- コロナ禍の影響から、**新たな就職氷河期世代を生じさせないための施策も不可欠。**

連合の取り組み

- 連合・地方連合会などによる**無料「なんでも労働相談」**の実施(P2:当事者の声引用)
- 地域における「良質で安定的な雇用の創出・確保」に関する取り組み協力(厚生労働省:**地域活性化雇用創造プロジェクトへの参画**)
- 連合「**重点政策**」に盛り込み、政党や省庁等、各種要請行動の実施



The screenshot shows the Union website's page for job support for the ice generation. The header includes the Union logo and navigation tabs for 'Main Activities', 'Publications', and 'Labor Consultation'. The main content area is titled 'Labor, Wages, Employment' and features a section for 'Job Support for the Ice Generation and Union's Approach'. This section includes an illustration of a man and a woman, with the man labeled 'Employment' and the woman 'Not Employed'. The text explains that the 'ice generation' (born between 1990 and 2000) faced a difficult job market during their school-to-work transition. It notes that while they did engage in job activities, they often found themselves in precarious employment or unemployment. The page lists several support measures: Spring Break (Spring Life Support), Minimum Wage, Working Hours, Unpaid Overtime, Death Benefits (including for COVID-19), and Labor Insurance/Social Insurance Enrollment. A link is provided for 'Employment, Labor-related Measures'.

連合HP:就職氷河期世代支援に関する取り組みページ

◆ 連合：「なんでも労働相談」に寄せられる当事者の声



- 月給の正社員で働きたい。会社を辞め、新しい職をハローワークで探すも氷河期世代で厳しい。(本人／2022年)
- 子どもが就職氷河期世代で仕事が見つからず、今後の心配。(親／2021年)
- 就職氷河期世代の知人が就職したが、事前に聞いていた話と異なる劣悪な労働条件で、退職を申し出た。就業規則に退職申し出は1カ月前と記載されていたものの、引継ぎなどで3カ月後でなければ、辞めることが出来ないとされた。就職氷河期世代を雇用すると、会社に助成金が入るのではないか。(知人／2021年)
- 就職氷河期と言われる中で就職したが、会社から不当な配置転換やパワハラ、残業代未払いがあり退職した。その後、複数回、転職し、現在は無職。ハローワークに行っても、自分に合った就職が出来ない。(本人／2021年)
- 派遣3年目。自分より前に入った方が派遣先に直雇用になり、同じく希望したが、厳しいと言われた。就職氷河期世代であり、派遣しか働くことができなかった。働き続けたいが、仕事を続けることが出来ずに悔しい。(本人／2020年)